

2002年12月アルゼンチンの政治情勢

2003年1月10日
在アルゼンチン大使館

1. 概要

デ・ラ・ルア政権崩壊一周年にあたって、暴力行為、商店への略奪行為等の噂が流れ国民の間に不安が広がったが、一連の抗議運動は治安当局との衝突もなく平和裡に終わり、社会的に安堵感を生じさせた。他方、政局においては、与党ペロン党内でのドウアルデ派とメナム派の抗争、急進党の党内予備選挙でのスキャンダル発覚と引き続き不安定な状況が継続した。

外交面では、ルーラ次期伯大統領が初めての外遊先として亜を訪問し、メルコスールの強化を訴え、伯でのメルコスール首脳会議でもメルコスールの活性化等が協議された。

2. 内政

(1) 大統領選挙に向けての各政党及び政治団体の動向

(イ) ペロン党

(a) 11日、ドウアルデ派とメナム派が謀略を企んでいると批判して、ロドリゲス・サア候補を支持する8名の下院議員が独自の会派を結成した。

(b) 17日、ドウアルデ派とメナム派が協議した結果、党内予備選挙の実施日を2003年2月23日に延期することを決定し、27日、党執行部が右日程を承認した。

(ロ) 急進党

(a) 9日、グエレーロ候補は、大統領選挙及び党内予備選挙の手続を批判し、党内予備選挙に参加しないことを表明した。

(b) 15日、党内予備選挙が行われ、即日開票及び集計作業が行われたが、不正疑惑が浮上し、31日時点で最終結果は発表されていない。党選挙管理委員会が23日に発表した暫定結果では、モロウ候補がテラーニョ候補を0.35%の僅差でリードしていた。今回の一連の不祥事を受けて、カセラ副党首及びセバジヨス党制度問題委員長は引責辞任した。

(c) 26日、選挙裁判所は、集計作業の中止を命じた。

(ハ) ARI

17日、ARIと連合を組んでいた社会主義勢力が、カリオ党首との中絶に関する考えの相違を理由に離脱した。

(2) 世論調査—大統領選挙の支持率

Ipsos社が、12日から17日の日程で全国主要都市にて18歳以上の男女1200人を対象に、大統領選挙に出馬を表明している候補者の支持率に関して世論調査を行った(信頼度: 95%プラス・マイナス2.8)

カリオ下院議員 (ARI、16.6%)

ロドリゲス・サア前大統領 (ペロン党、15.6%)

メナム元大統領 (ペロン党、13.8%)

キルチネル・サンタクルース州知事（ペロン党、8.1%）

ロペス・ムルフィー元経済相（再建連邦運動、7.5%）

デ・ラ・ソタ・コルドバ州知事（ペロン党、4.8%）

その他（12.6%）、白票及び棄権（6.7%）、不明及び無回答（14.3%）

（3）最高裁判所

26日、上院において、ペロン党、地方政党及び急進党の一部の支持を得て、マケダ上院暫定議長（ペロン党）の最高裁判所判事の任命が承認され、30日、同人は就任した。

（4）議会

（イ）4日、下院においてカマーニョ（ペロン党）が、ARI及び左派勢力以外の全ての政治勢力の支持を得て下院議長に再選された。任期は2003年12月までである。

（ロ）27日、ホセ・ルイス・ヒオッハ・ペロン党上院議員団団長が、上院暫定議長に就任した。

（5）地方の動向

（イ）サンティアゴ・デル・エステーロ州

12日、メルセデス・マリナ・アラゴネス州副知事（ファレス元州知事夫人）が、州知事に就任した。

（ロ）カタマルカ州

26日、カステージョ州知事（急進党）は、州知事選挙を2003年3月2日に実施する政令に署名した。同時に、州の上院議員（8議席）及び下院議員（21議席）の改選選挙も実施される。

（6）抗議運動

19、20日、デ・ラ・ルア政権崩壊一周年を迎えるにあたって、ピケテーロ（道路封鎖を行う失業者・貧困者団体）及び住民集会等は、政府及び米国系企業に抗議する目的で、道路封鎖、デモ行進、集会等を実施し、20日には、左派系労組CTAが24時間のゼネストを行った。一連の抗議運動に対し、治安当局は厳戒体制を敷いて対応した。結果的には、少数の負傷者及び逮捕者が出たのみで、治安当局との衝突もなく平和裡に終了した。

（7）イスラエル共済会館爆破事件

3日、ガレアノ連邦予審判事は、独を訪問し、同地に滞在している元イラン諜報機関職員Abdolghassem Mesbahi（証言C）に面会し、同人よりメネム元大統領がイランの関与を隠蔽する見返りに1000万ドルを受け取ったとの証言を得た。但し、同判事がメネム元大統領と関係のある人物29名の写真を提示し確認したが、誰も見覚えがないとの回答を得た。

（8）その他の主要人事

- (イ) 11日、アルフォンソ・プラット・ガイが中銀総裁に就任した。
- (ロ) 17日、ホセ・マソニ汚職対策局長が辞任した。
- (ハ) 30日、フリアン・ドミンゲス（ペロン党）が内閣・議会関係長官（いわゆる副首相、首相府）に就任した。

3. 外交

(1) 第23回メルコスール首脳会議

4、5日、ドゥアルデ大統領、ルカウフ外相及びラバーニャ経済相は、ブラジルで行われた首脳会議に出席した。同会議において、メルコスールとアンデス共同体の自由貿易協定案、行政機関及び紛争解決機関としての常設裁判所の創設、人の移動及び居住の自由に関する協定等を協議した。

(2) 伯

(イ) 1日から3日にかけて、ルーラ次期大統領が当選後初の外遊先として亜を訪問した。2日には、ドゥアルデ大統領と首脳会談を行い、メルコスール、両国の貧困問題、金融問題、亜のIMFとの交渉や次期大統領選挙等に関し意見を交換した。会談後のスピーチにおいて、次期大統領は、亜に対し無制限の連帯を表明したほか、メルコスールの結束を強化する必要がある旨の発言を行った。滞在期間中、その他に、ルカウフ外相をはじめ、イバラ・ブエノスアイレス市長及び上下両院議長等と会談した。

(ロ) 9日、Geraldo Quintao 伯国防相が訪亜し、ハウナレナ国防相との間で両国国境地域での領空コントロールに関する情報交換協定に署名した。

(3) 米国

(イ) 10日、亜米二国間定期協議が行われ、コロンビア情勢、イラク問題等に関し協議したほか、米国は亜を忠実な友好国と位置づけた。亜側からは、ペトレラ外交政策担当次官補が、米国側からは、Lincoln Bloomfield 国務次官補代理（政治・軍事問題担当）が出席した。

(ロ) 16日、ブエノス・アイレスにて米国政府の代表とテロ対策の協議を行い、17日には伯、パラグアイ政府の代表も加えて、三国国境地帯でのテロ、麻薬取引、マネーロンダリング、武器不正輸出等の意見交換を行った。

(4) ヴェネズエラ

5日、ルカウフ外相は滞在中のブラジルにて、2003年に大統領選挙を前倒しして実施することを支持し、その際にはチャベス大統領が出馬できる機会を設けるべきであるとの見解を示した。また、亜外務省発出のコミュニケでは、ヴェネズエラ国内の対立が民主的な方法にて解決されることを求め、暴力による犠牲者の家族へ哀悼の意を表明した。

(5) エクアドル

12日、グティエレス次期エクアドル大統領が訪亜し、ドゥアルデ大統領を表敬したほ

か、国会を訪問した。ドゥアルデ大統領との会談では、二国間関係の強化及びラミの統合に関し再確認した。議会でのスピーチでは、ドル化に関して、弱者が影響を受けることを考慮して、導入前に十分議論する必要があると指摘した。今回の訪垂には、エクアドルの企業団も同行し、当地企業団と意見交換を行った。

(6) ペルー

17、18日、ワグネル外相が訪垂し、ドゥアルデ大統領、ルカウフ外相、ラバーニャ経済相と会談した。今回の訪垂の主要目的は、垂秘移民協定の締結であった。

(7) 北朝鮮

27日、垂外務省は、北朝鮮が核関連施設を監視している国際原子力機関の査察官を退去させる決定を下したことに對して、声明文にて深い懸念を表明した。その中で、垂は北朝鮮における核開発防止を試みる国際原子力機関のあらゆる努力を支持し、核不拡散条約(NPT)の監視システムを再構築することを切望すると述べた。

(8) 中国

10日、Deng Nan 科学技術副大臣が訪垂し、ジャンタシオ教育相及びフリオ・ルナ科学技術長官と会談し、科学技術協力協定に署名した。右協定は、宇宙科学、バイオ・テクノロジー、衛生、産業振興、社会開発等さまざまな分野が含まれおり、具体的には2003年より共同プロジェクトを実施する目的で両国間でそれぞれ10名の科学者の交換プログラムを開始する。

(9) 伊

9日から11日にかけて、Gustavo Selva 下院外交委員長が代表を務める下院議員団が訪垂し、11日にはルカウフ外相及びラバーニャ経済相と会談した。同会談で、議員団は、垂のIMFとの交渉への支持を表明したほか、EUをモデルとしてメルコスールを進化させていくことが重要であると述べた。

(10) 要人来往訪

(イ) 来訪

1-3日 ルーラ次期伯大統領

9日 Geraldo Quintao 伯国防相

10日 Deng Nan 中国科学技術副大臣

12日 ルシオ・グティエレス次期エクアドル大統領

17、18日 アラン・ワグネル・秘外相

(ロ) 往訪

4、5日 ドゥアルデ大統領、ルカウフ外務大臣、ラバーニャ経済大臣、第23回メルコスール首脳会談に出席のため、伯へ

(11) 今後の主要外交日程

1月1日 ドゥアルデ大統領、ルーラ伯大統領就任式出席のため伯訪問

1月14日 ドゥアルデ大統領、ルカウフ外相、伯訪問

1月20日 ルカウフ外相、オーストリア訪問

1月21日 ルカウフ外相、ベルギー訪問

1月23-24日 ドゥアルデ大統領、世界経済フォーラム出席のためスイス・ダボス訪問